

## 2013年6月議会 廃炉を求める請願に賛成討論2

日本共産党の大名美恵子です。

会派を代表し、請願第24-4号「東海第二原発の廃炉を求める意見書」採択を求める請願書について、委員長報告の不採択とすべきに反対し、請願に賛成の立場から討論いたします。

本請願は、子どもや女性のしあわせを願って様々な活動を展開している女性団体、新日本婦人の会東海支部が、JCO臨界事故の悲劇から、原子力事故を二度と起こさせてはならないと決意し、取りくんできたが、東日本大震災により最悪の原発過酷事故を引き起こしたことを受けて、改めて原発事故を起こさないためにと提出されたものです。

請願趣旨では、福島第1原発の過酷事故により、多くの人々が苦しんでいることに胸痛め、もはや国民にとって「安全な原発」ということは通用しなくなったと述べています。

また東海村に立地する原電東海第2原発が老朽化に伴うさまざまなトラブルを発生していた折、震度6弱の地震被害にあっていることから、稼働を続けることは、新たな被曝者をつくることに繋がるとして、未来をになう子どもたちに安心と希望を保障するために、再稼働せず廃炉にすべきだと意見書の提出を求めてきたものです。

同時に、原子力防災計画の見直しにより避難計画の策定等求めています。これらは、東海村に在住し、東海第2原発とずっと隣り合わせてきた住民の気持ちとして十分理解ができます。

議会原子力問題調査特別委員会は、こうした請願者の切実な声にどれだけ耳を傾けた調査と審査を行ってきたのでしょうか。請願第24-1の委員長報告に対する討論でこの間の状況を述べましたのでくりかえしませんが、原発立地自治体の議会特別委員会としては、あまりに不十分、特に強行に請願を採決すべきと主張した委員らの意見では、事業所の説明は鵠呑み、国の方向次第など、住民に対し不誠実そのもので、議員としても責任感を感じません。

昨年12月誕生の安倍首相は、国会で、「原発に絶対安全はない」と認める一方で、原発の再稼働と輸出に暴走を始めました。原発の危険をひた隠しに隠し続けて国策としてきた首相所属の政党として、反省はまるで感じられないなかでの暴走です。国民の理解が得られるはずがありません。むしろ国民世論は再稼働反対が主流です。今、原子力発祥の地東海村議会だからこそ、こうした住民の気持ちに寄り添った調査や審査が行われるべきです。

よって、請願の趣旨に沿った十分な調査・審査が行われないままの本報告に反対し、住民の命を被曝から守れと求めた請願第24-4号「東海第二原発の廃炉を求める意見書」採択を求める請願に賛成の立場からの討論といたします。